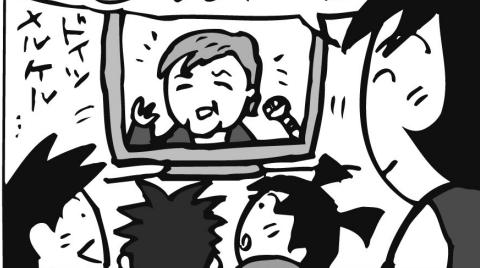


女性リ・ダ えいちゃん

世界では女性の活躍が進んでいるわねえ...



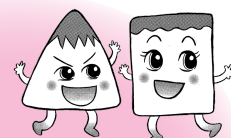
一般社団法人きゅーぶ

- ①子どもと接する機会が多いので、自分が感染源にならないように感染しないよう、感染防止対策を取りつつ、子どもたちや保護者とのコミュニケーションをどう維持していくかが課題。
- ②マスクの着用、手洗い、換気、教室の形態により衛立などの環境整備と、健康観察に気を配った。安心してもらうための保護者との情報共有(日常会話)を図った。
- ③新型コロナ対策が功を奏し、副次的にインフルエンザ罹患が激減している結果も併せて、新しい生活様式対策が普通になり、過敏にも鈍感にもなり過ぎない社会を目指したい。



さんか・クラブ

- ①活動のひとつである情報紙の作成。そのためにはアイデアを練る編集会議は必要不可欠。その“コミュニケーションどうする問題”が起こった。
- ②ZOOMなどを使いこなすのも難しく、みんなが使えるSNSを活用して最小限のリアル会議を行っている。
- ③私たちの望む社会は「自分らしく生きられること」。コロナ禍にあって社会の中に現存していた問題(DV、女性の貧困、働き方など)は深刻化し、新しい問題(差別や二極化など)も出てきた。「今問題になっていること」「どこに相談する?」を知らせることから、互いに助け合うまちづくりにつなげたい。



コロナ禍は、仕事、家事、育児、介護など、女性への影響も多大了。男性も家族と過ごす時間が増え、家庭への参画にもつながっています。コロナによる社会の変化は、女性も男性もジェンダー意識を変えるチャンスかもしれません。

また、“新しい生活様式”は、個人だけではなく、集団で活動する団体にも大きな影響を与えました。そしてそれぞれがこれからの新しい日常に向けて動き始めています。社会状況がどう変化しても「人として自分らしく生きる」ための知恵を結集して、誰もが幸福なまち北名古屋市にしていきたいと思います。

「ひとりごと...」-80代男性編-

「高齢者の日常」

新型コロナウイルス感染防止のため、3密禁止や外出自粛が求められ、さらにイベントの中止、施設の休館で、生活形態が変わってしまった。

特に一人暮らしの高齢者は、誰とも一言もしゃべらない日もあって、物忘れの加速を自覚し、認知症への進展に怯える日々。

なんとかスポーツジムが部分オープンとなり、次第に以前の日常生活を取り戻しつつある。あ〜、マスクがとれる日はいつかなあ〜!



(T)